ずいそう

香港は楽しい

伊勢木 浩 二

今年還暦を迎えた。私は旅行が好きで妻と年間に3,4回は海外に出かけて行く。若いころは長期で会社を休むことが難しく東南アジアへ行くことが多かった。50歳になったらアメリカやヨーロッパに長期で休んでいくぞ，と会社の幹部達に宣言し，やっと迎えた50歳からはアメリカやヨーロッパに行けるようになった。今年は4月にニューヨークに行き，今話題になっているトニー賞ミュージカル部門の主演男優賞にノミネートされた渡辺謙主演の「王様と私」をブロードウェイで観てきた。私が観たのは開演3日目で，日本で席を手配してもらっていたから観ることができたが，当日は満席でびっくりした。今まで観たブロードウェイのミュージカルで一番感動した。本当に良かった。

ニューヨークの話はこれくらいで，今回の随想はニューヨークのことではなく香港のことを書こうと思う。

今年は香港に5月に行った。たぶん，今回で24回か25回目だと思う。初めて香港に行ったのは，まだ香港が1997年にイギリスから返還される前の時で20代後半だったと思うが，その頃の香港は今よりもっともっとパワフルな町だったと思う。謎の多いスラム街九龍城がまだ取り壊されていない時代で何でもありの都市に思えた。日本ではまだ携帯電話が普及していない頃に香港の若者はすでに携帯電話を使い，広東語で何やら真剣に話していた。聞けば若者は独立して自分が経営者になり一旗揚げるのが夢だったようだ。日本は会社を設立するのに資本金の最低額が決められていて起業が難しい時代に，香港では誰でも会社を設立できた。

今ではいい経験をしたと思っているが，3度目の香港旅行で私が信号待ちをしていた時，後ろからいきなり背中を押され車道に突き飛ばされた。その時タクシーが急発進してきて私はひかれそうなった。その瞬間後ろにいた男が私のポケットから財布を抜き取り逃げた。私は足に自信があったので，何やら大声で怒鳴りながら走り追いかけた。追いつく寸前，前から大きな白人が犯人にタックルをして捕まえてくれた。後で知ったのだがその白人は警官だった。警察に行き事情聴取され財布は戻ってきたのだが，ほとんど一日がそれで潰れてしまった。捕まえた犯人は逃走役で後ろから私を押した男，タクシーの運転手それらはみんな仲間で窃盗グループらしい。後日，日本に帰ってから香港警察より電話があり窃盗グループを裁判に掛けるからもう一度来てほしいと言われた。しかし仕事の都合がつかずに行けなかったので，残念ながらその窃盗グループは釈放されたらしい。また，夜一人で歩いていたら，いきなり腕をつかまれビルの間に引っ張り込まれたこともある。頭にターバンを巻いたインド人のような三人組にわけのわからない言葉でまくし立てられた。どうやらお金を出せと言っているようだ。この三人は少し太り気味なので走って逃げれば逃げられる，と思い隙を見て全力疾走，5分位走って後ろを振り返ると誰も追いかけてこない，危ないところだったが助かった。

昔の香港の話はさておき，今の香港は治安もよく楽しい町だ。なんと言っても香港の魅力は世界の美味しいものがそろっていることだ。買い物も面白いと思うが，近年は円安のためにものによっては日本より高いものもある。

香港に着いたらまずは両替，香港の空港からホテルまでのタクシー代だけ香港ドルであればいいので，日本の空港では前回の残りがあれば両替をしない。

私の知る限りでは両替のレートが一番良いのがペニンシュラホテル近くでネイザンロードに面した重慶大厦（チョンキンマンション）。5月末に日本の空港で1香港ドルが18円位だったが，重慶マンションの一階入口近くにある両替商は1円が0.0609香港ドルとか書かれていた（1 ÷ 0.0609 = 16.420円）。さらに奥に入った店では1円が0.0652(1 ÷ 0.0652 = 15.337円)だった。ほんの数メートルの違いで1香港ドルが1円以上差がある。日本の空港となら2.5円も差がある。この中にはたくさん両替商があり随分レートが違うのが面白い。

重慶マンションは，繁華街のど真ん中にあるのだが何とも言えない空気感（？）があるビルだ。しかも，

メイン・ストリートであるネイザンロード沿いという一等地に建っている。外観は香港のどこにでもあるような古い雑居ビルだが，入口にインド系の人やちょっと怪しげな人が立っていて入りづらく感じるが気にせず入る。両替を済ませれば，滞在中には必ず行く私のお奨め飲茶の店だが，この店はリーズナブルで美味しい飲茶が食べられる。中環(セントラル)のスターフェリー乗り場から５分ほどにある大會堂(シティー･ホール）３階にある美心皇宮（マキシムズパレス），体育館のように広いが日本人はほとんどいない。予約はできず店の前で番号札をもらい順番を待つシステムで，順番がくると席に案内してくれる。この店はなんといっても昔ながらのワゴン式の飲茶で，大勢のおばさんが蒸し器の付いたワゴンに飲茶を乗せて通路を売り歩くので，近くに来た時にセイロを指差せば蓋をあけてくれ中を見せてくれる。こんな時広東語で「ウンゴーイ」という言葉を覚えていれば便利だ。たぶん日本語の「ちょっと」とか「すいませーん」と言うような意味だと思う。おばさんを呼ぶ時も「ウンゴーイ」と言えばおばさんがワゴンを止めてくれる。ついでにどこの店でもお勘定はマイタンなので「ウンゴーイ・マイタン」で OK だ。ウンゴーイとマイタンを覚えていればどんな店に行っても通じる。

話を戻すが，１つのセイロに大体３個から４個の飲茶が入っているのでシェアーして食べるのがお奨め。お奨めの飲茶は・蝦餃（ハーガウ）プリプリエビ入り蒸餃子。・焼売（シューマイ）蟹子が上にのっている。・腸粉（チョンファン）米の粉を溶かして蒸したものでチャーシューやエビなどが中に入っている。・蘿蔔糕（ローバッコ）大根もちのことで大根を千切りにし，こまかく刻んだ中国ソーセージや野菜などを混ぜて蒸したもの。･叉焼包（チャーシューパオ）日本のチャーシューとは違って赤っぽい色で味は甘く，見た感じは日本の豚まんに似ている。・排骨（パイクワ）骨付きの豚肉で小さくカットされていて数個が小皿に入っている，見た目より美味しい。青島ビール(チンタオビール）とよく合う。

・マンゴープリン（このままマンゴープーディンで通じる）黄色いマンゴーの色と濃厚な味，甘くて美味しいデザート。お茶は無料でポットで出してくれるが，何も言わなければジャスミンティーがでてくる。私は大好きな普洱茶(プーアル茶，ポーレイ茶)を頼む。（普洱茶は少し発酵した香りがして脂分を体外に出してくれるそうだ。）最近はワゴン式の飲茶は無くなりつつあるのでこの大會堂（シティーホール）の飲茶は香港に行ったら絶対に行ってほしい。
住所は「2/F, Low Block, City Hall, Central, Hong Kong」中国語の住所は「香港中區大會堂低座二樓」

営業時間は月～土 11：00 ～ 15：00，17：30 ～ 23：30，日祝 9：00 ～ 15：00，17：30 ～ 23：30 で年中無休と案内には書かれているが，たまに結婚式で貸切りの場合があるので行ってみないとわからない。お昼は 11：00 にはもう行列ができている。

他にも飲茶や大衆的な広東料理のお店はたくさんあるが，私は高級な中華料理も旅行中に一度は食べる。お奨めは私が香港に行くと宿泊するフォーシーズンズホテル香港にあるミシュラン３ツ星レストラン「Lung King Heen」だ。このレストランの鮑はちょっとお高いが絶品。近年香港のホテルではふかひれを動物愛護的な意味において残念だがメニューにはない。他にはグランドハイアット・ホテルがホテルオープン以来営業している広東料理のレストラン「One Harbour Road」。アイランドシャングリラホテルの広東料理「夏宮」，ここのマンゴープリンは最高。この３店が私のお奨め高級広東料理だと思う。

香港に来たら食べることばかりで私は観光をあまりしない，有名なビクトリアピークにも一度しか行ったことがない。少し遠いがタクシーで 30 分くらいの(バスもある）レパルスベイは海辺の高級マンションが立ち並ぶ街でジェニファー・ジョーンズとウィリアム・ホールデン主演の「慕情」の舞台にもなったベランダというレストランがある香港随一のビーチリゾートで，雑多なビル街や人口密度の高い香港のイメージとはかけ離れたとても落ち着いた海辺の町。ベランダでのランチやアフタヌーンティーで優雅な時間を過ごすのもお奨め。レパルスベイから少し足を延ばせば赤柱（スタンレー）という高級品はないが雑貨やシルク製品が安い商店が立ち並ぶ海辺の町もおもしろい。

私は香港が好きで，ほぼ毎年行っている。複雑な話だが香港人の友人は自分達は中国人ではないと言っている。これから香港はどうなっていくのだろう…。私は日本人（広東語でヤップンヤン）に生まれてきて良かったと思う。

――いせき　こうじ　淀川変圧器㈱　代表取締役会長――